

海の科学講座への招待

昨年「12年ぶりに黒潮が大蛇行」とニュースになったのをご記憶でしょうか。日本の南を流れる黒潮は、遙か遠く熱帯の海からやってきます。膨大な熱を熱帯から輸送することで日本周辺の海水温や、日本の気候・風土に大きな影響を与えるだけでなく、東シナ海では、大河を通じて流れ込む水と混ざり合うことで豊かな漁場を形成します。

今回の講座では、世界有数の海流と言われる黒潮がどのように形成されるのか、その成り立ちや大蛇行するメカニズムなどの特性に加え、東シナ海で育つ魚たちへの影響について、観測データや最新の研究成果を基に、高校生など若い人をはじめ一般市民の方々にわかりやすく紹介します。海の不思議、未知の海に興味を惹かれる方、なんだかわからないけどおもしろそうだな、と思った方、この機会にぜひ参加してみてください。

講座内容・講師紹介

『風が吹けば黒潮が流れる？』

講師：遠藤貴洋（九州大学応用力学研究所 准教授）

「風が吹けば桶屋が儲かる」ということわざで、風が吹いてから桶屋が儲かるまでに数段階の過程を経ることはご存知だと思います。同様に、風が吹いてから黒潮が流れるの間にも実は数段階の過程が存在しています。そして、大きく安定した流れと思われがちな黒潮も絶えず変動しており、その変動には、黒潮よりも深いところにある海山が大きく関わっていることが明らかになってきました。

講演では、まずことわざになぞらえて黒潮の成り立ちを解説した後、現在、日本南岸沖で形成されている黒潮大蛇行や、黒潮にとって東シナ海への入り口にあたる台湾東沖の海山上で行われた最新の観測結果を題材に、黒潮と海山の様々な関係について紹介します。



『海洋観測から見えてくる黒潮の姿』

講師：長井秀樹（福岡管区气象台 気候変動・海洋情報調整官）

日本の周辺を流れる海流の一つが黒潮です。この海流には「日本海流」という別の呼び方もありますが、一般的には「黒潮」と呼ばれています。なぜ「黒い潮」なのでしょう。また、黒潮は他の海流と比べて流れが早く、流量も多いという特徴があります。このため、流れる場所が変化すると沿岸の潮位や漁場、船舶の航路など、私たちの生活に関係した様々な分野に大きな影響を与えます。

講演では、世界有数の海流といわれる黒潮の特徴や気候への影響、大蛇行と沿岸の潮位との関係など、これまでの観測結果を基に紹介します。



『東シナ海の仔稚魚たちと黒潮』

講師：佐々千由紀（西海区水産研究所 資源海洋部 主任研究員）

東シナ海は我が国周辺の豊かな魚類生産を支える「母の海」と言われています。ここではマアジ・サバ類・ブリなど食卓でお馴染みの魚や、私たちが直接的には利用していない多種多様な魚の一大産卵場が形成されます。ふ化した子供たち（仔稚魚）は暖かく餌の豊富な環境で成長しながら、黒潮などの流れに乗って分布を北の海域に広げます。

講演では、東シナ海の大陸棚域に生息する水産重要魚種をはじめとして、黒潮の沖合域で大きな資源量を誇るハダカイワシ類などの深海魚まで様々な種を取り上げ、これらの仔稚魚が黒潮と関わりながらどのように生活しているのかを紹介します。

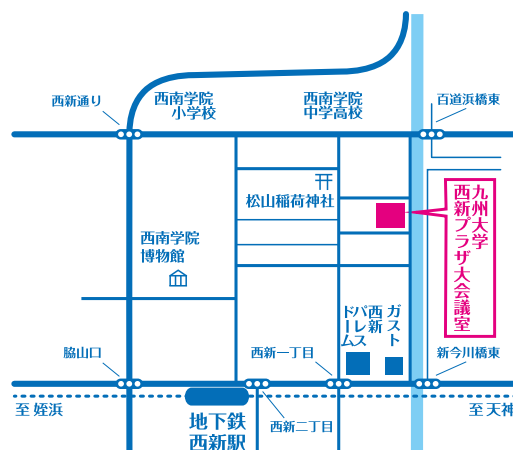


司会進行



岸 真弓（気象予報士・気象キャスター・防災士）

プロフィール：群馬県出身。学習院大学文学部卒業。気象予報士、防災士。日本気象協会に所属した後独立。現在、気象キャスターとして、テレビ・ラジオに出演。また、野菜ソムリエや食育アドバイザーの資格も持ち、季節を楽しめるような天気予報を目指している。



問い合わせ：092-725-3613（福岡管区气象台 地球環境・海洋課）

共 催：福岡管区气象台、九州大学応用力学研究所、西海区水産研究所

後 援：福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、地球ウォッチャーズ - 気象友の会 -

ホームページ：<http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/ocd/umikouza/index.htm>



地下鉄西新駅7番出口より徒歩約10分
駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。